

データで見る訪日インバウンド市場トレンド マーケット・リカバリー・ウォッチ特別号

2022年3月16日

発行 株式会社JTBC総合研究所
分析協力：OAG Aviation Worldwide Limited.

「データで見る訪日インバウンド市場トレンド」はCOVIDにより訪日観光客の入国がストップしたため2020年2月以降、発行を中断しておりました。今後は訪日旅行需要の再開に向けた動きにあわせ不定期に発行していく計画です。



本レポートのご案内

■本レポートについて

「データで見る訪日インバウンド市場トレンド」はCOVIDにより訪日観光客の入国がストップしたため2020年2月以降、発行を中断しておりました。今回は国際旅行需要再開の展望をまとめ、「マーケット・リカバリー・ウォッチ特別号」として発行いたしました。今後は訪日旅行需要の再開に向けた動きにあわせ不定期に発行していく計画です。

■主な使用データ

国際航空座席数(OAG <https://www.oag.com/jp/>)/
国際旅行者数統計(PATAmPOWER <http://mpower.pata.org/>)
訪日旅行者数(JNTO <https://www.jnto.go.jp/jpn/>)
COVID感染者数・死者数・水際対策の水準・外出規制
(Our World in Data <https://ourworldindata.org/coronavirus>)

■目次

サマリー	P3
見えてきた需要回復のシナリオ 国際旅行需要の回復で先行するエリアの状況	P5
水際対策の転機となるか オミクロン株のインパクト	P9
COVIDの影響は直接的影響から間接的影響のフェーズへ 経済環境の変化による旅行需要への影響を懸念	P14
データ表	P22

データで見る訪日インバウンド市場トレンド マーケット・リカバリー・ウォッチ特別号

発行日 2022年3月16日
発行者 株式会社JTB総合研究所
03-6260-1200
分析協力 OAG Aviation Worldwide Limited.
データ提供 Pacific Asia Travel Association(PATA)

本レポートは <https://www.tourism.jp> にてダウンロードいただけます。印刷物は作成しておりません。
転載を希望される場合は弊社までご一報ください。

© JTB Tourism Research and Consulting 2022

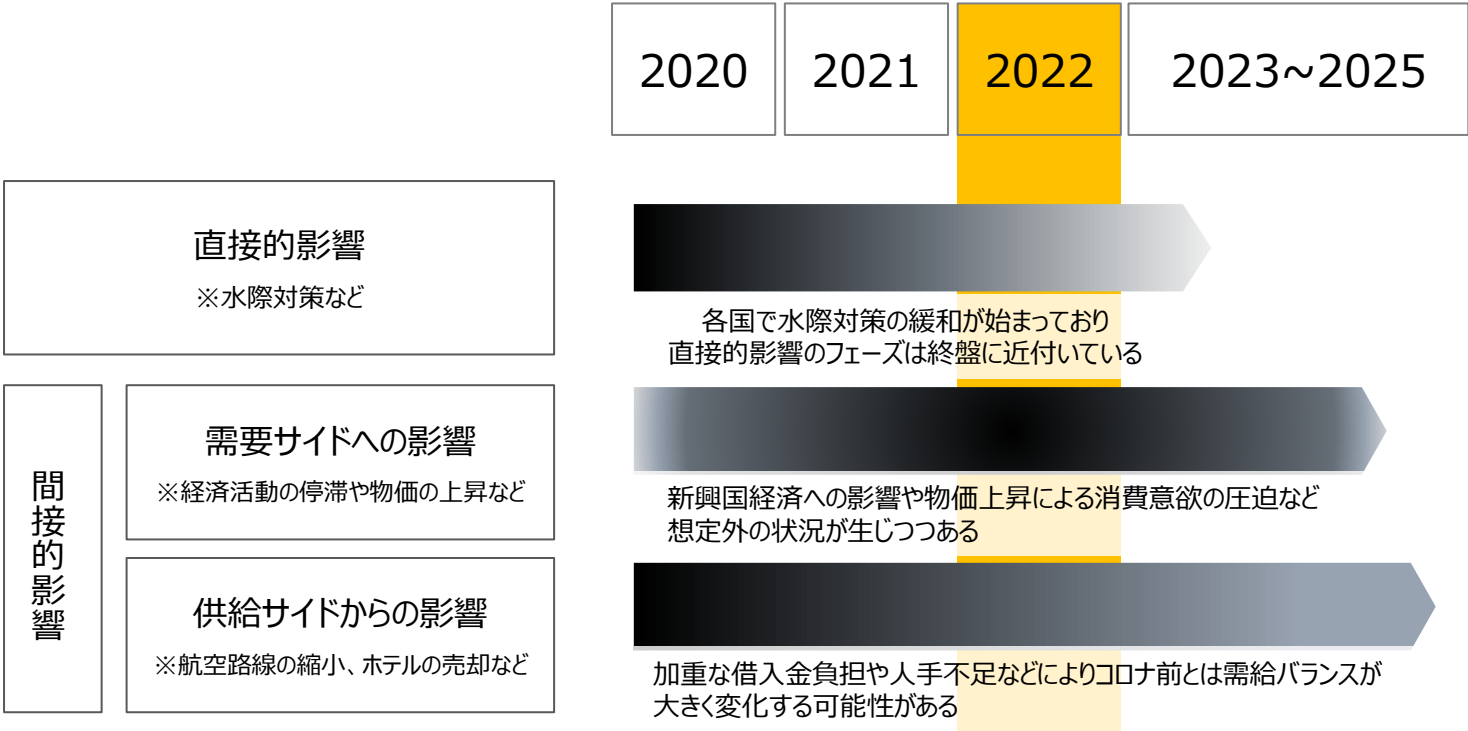
サマリー

1. 約2年が経過したCOVIDによる国際旅行需要への影響は、水際対策など直接的影響のフェーズから、物価上昇や経済活動の停滞などを経由した間接的影響のフェーズへと移行しつつある。(P4)
2. 現状の国際旅行需要は先行回復する欧米とアジア・大洋州との間で大きく差が開いている。国際旅行の需要回復は、デスティネーションの水際対策緩和が先行、これにソースマーケット側の隔離義務等の緩和が加わると加速するものとみられ、アジアなどの地域においても、今後、需要回復が動き出すものと期待される。(P6~P8)
3. オミクロン株の流行による国際旅行需要に対するインパクトは限定的とみられる。むしろ現状は致死率の低下が水際対策の緩和に結び付きつつあり、オミクロン株の流行を境に水際対策の緩和に動く国が増えつつある。(P10~13)
4. 感染対策などにおける経済力の差が経済の回復にも波及しつつある。経済成長率への影響は新興国で大きく、回復期の旅行需要への影響は不可避とみられる。アジアなど訪日旅行の主要マーケットの成長率も大きく減速するおそれがある。(P15~P17)
5. アフターコロナの需要回復期における国際旅行マーケットでは、旅行単価が上昇する一方で旅行者数の伸び率が抑制される展開となる可能性が高まっている。実質単価の低下を背景に旅行者数が伸びたCOVID前の状況が逆転することになりそうだ。訪日マーケティングも量から質への戦略転換が急務となっている。(P18~P21)

COVIDの国際旅行需要に対する影響は水際対策などの直接的影響のフェーズから物価上昇や経済活動の停滞などを経由した間接的影響のフェーズへと移行しつつある

- ◆ COVIDによる国際旅行需要に対する影響は、水際対策などによる直接的な影響から、COVIDによる経済やサプライサイドへの影響を経由した間接的な影響へと移行していくものと考えられる。
- ◆ 直接的影響が卓越している間は、旅行者の動きが抑制されているために間接的影響の大きさははっきりわからない。間接的影響は直接的影響がある程度落ち着いて来たときに初めて明瞭となってくる。
- ◆ 2022年は、水際対策の緩和が進むことで、物価上昇やツーリズム産業における人手不足といったCOVIDがもたらした意外な問題が、どのような影響を旅行市場にもたらすか、目撃する年となるだろう。

新型コロナによる直接的影響と間接的影響



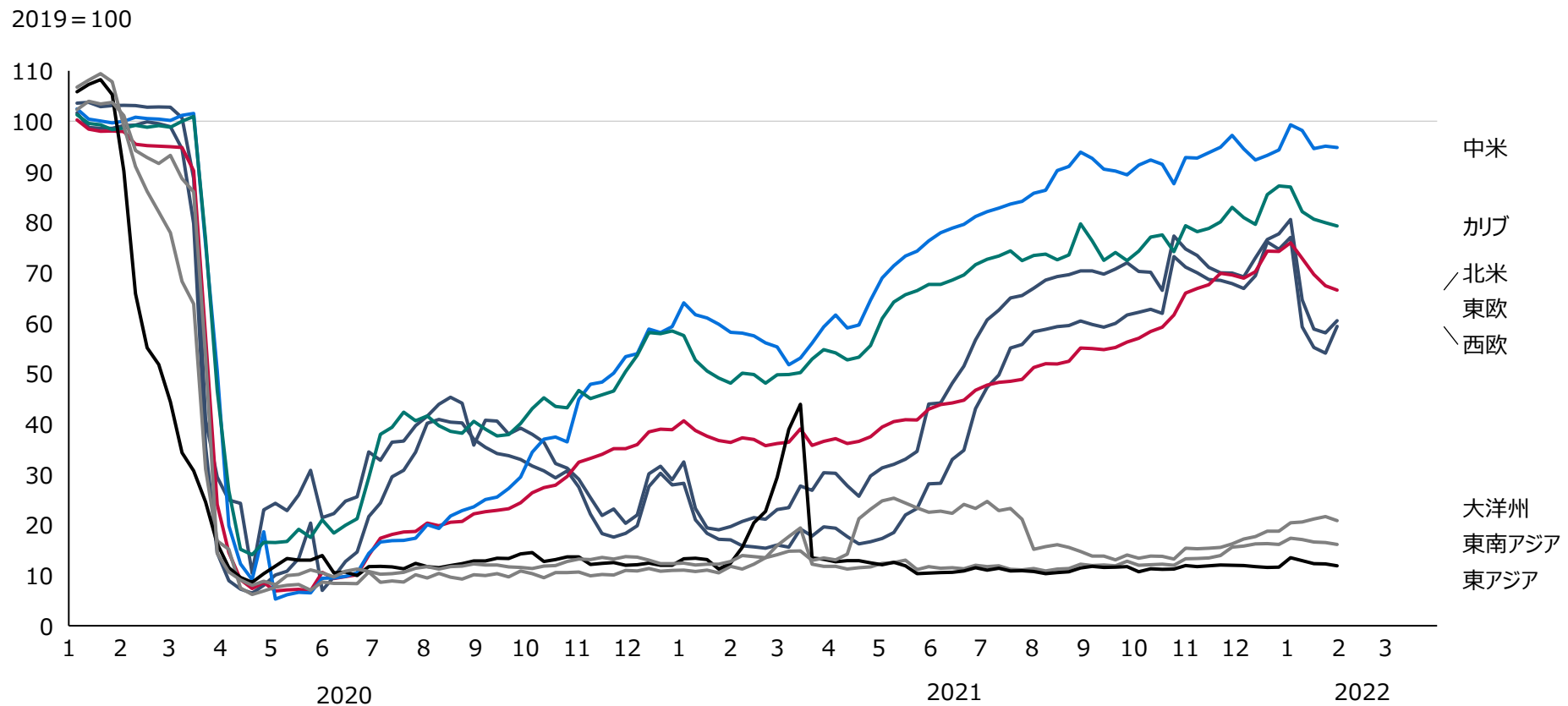
見えてきた需要回復のシナリオ

国際旅行需要の回復で先行するエリアの状況

現状の国際旅行需要は先行回復する欧米とアジア・大洋州との間で大きく差が開いている

- ◆ 2019年における国際線の定期便座席数を100とした各エリアにおける座席供給数の回復率は欧米とアジア、大洋州の間に大きな開きができている。
- ◆ 搭乗率が大幅に低下しているため座席供給数の回復率に比べると旅客需要の戻りは鈍いと考えられるが、欧州や北米・中米・カリブの旅行需要が先行して回復していることは明らかである。

国際線航空線座席供給数の回復率

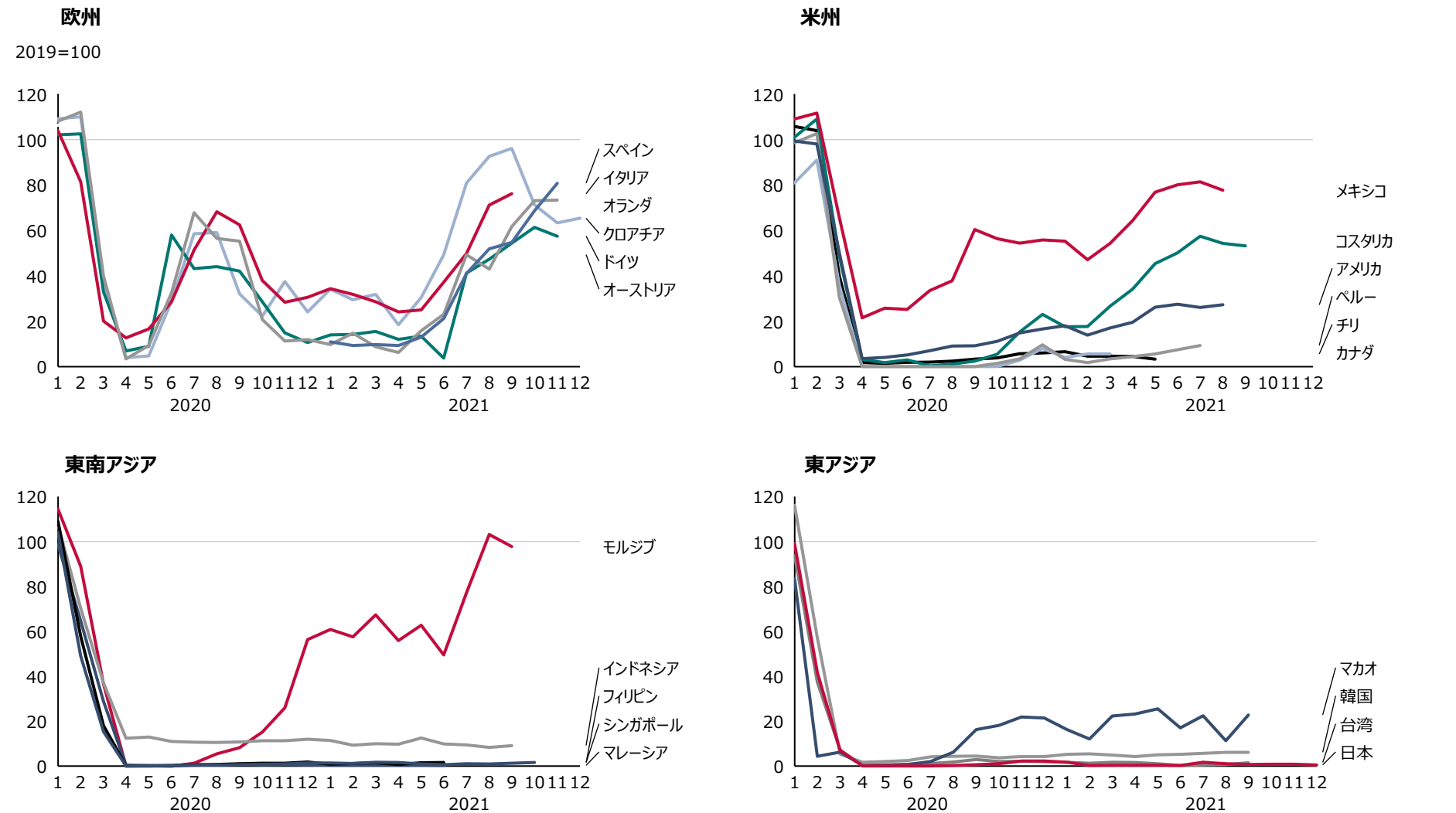


(注)座席数回復率はOAGの座席数データをもとに2019年を100としてJTB総合研究所が算出。

アジアなどにおいても水際対策の緩和に動いているデスティネーションはみられるが、実質的な需要回復は進んでいない

◆ デスティネーション別の旅行者数でもアジアにおける需要回復はほとんど進んでいない。モルジブだけが例外的な回復を見せている。

エリア別にみた国際旅行需要の回復率

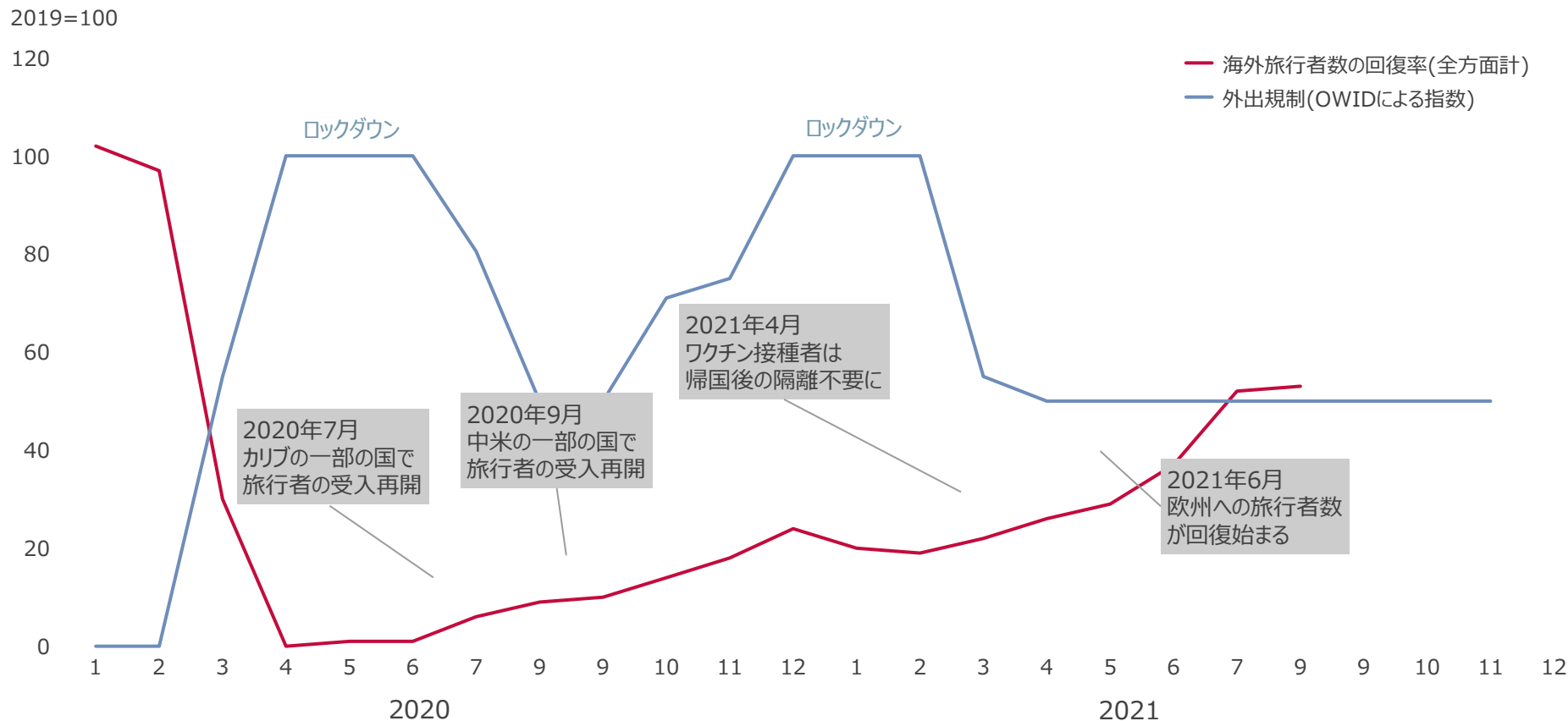


データ出所：欧州のデータはtourMIS (<https://www.tourmis.info/>)、それ以外のエリアは PATAmPOWER (<http://mpower.pata.org/>) のデータをもとにJTB総合研究所作成。

需要回復のプロセスでは、デスティネーションの水際対策緩和が先行、これにソースマーケット側の条件緩和が加わると加速するものとみられる

- ◆ ソースマーケットとして回復が最も進んでいる米国では最初のロックダウンが終わった2020年7月にカリブの一部の国で旅行者の受入が再開されたことをきっかけにショートホールデスティネーションへの旅行が再び始め、2021年4月にワクチン接種者の帰国後の隔離が不要となったことをきっかけに需要回復が加速した。
- ◆ デスティネーション側の規制緩和はアジアでも動き始めており、中国など主要ソースマーケットにおける海外旅行再開がアジア全体の国際旅行需要の回復に大きな影響力を持つものと考えられる。

米国のアウトバウンド旅行者数回復率

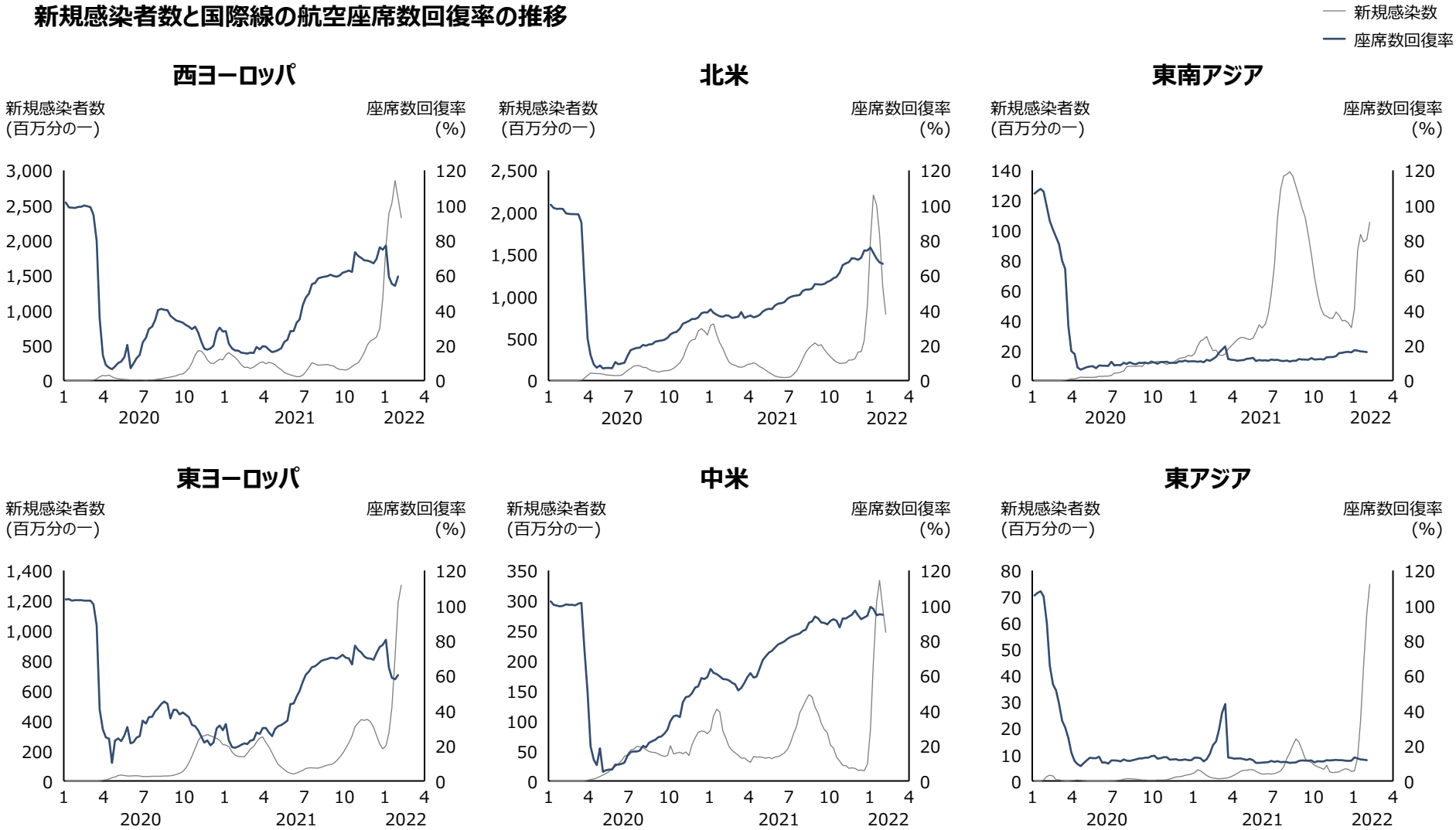


水際対策の転機となるか
オミクロン株のインパクト

オミクロン株の流行による国際旅行需要に対する影響は限定的

- ◆ 2021年末以降、急速に拡大したオミクロン株により需要回復が先行していた欧米では座席数回復率に少なからぬ影響が出ているが、需要回復が振り出しに戻るようなものではなく、影響は限定的と考えられる。

新規感染者数と国際線の航空座席数回復率の推移

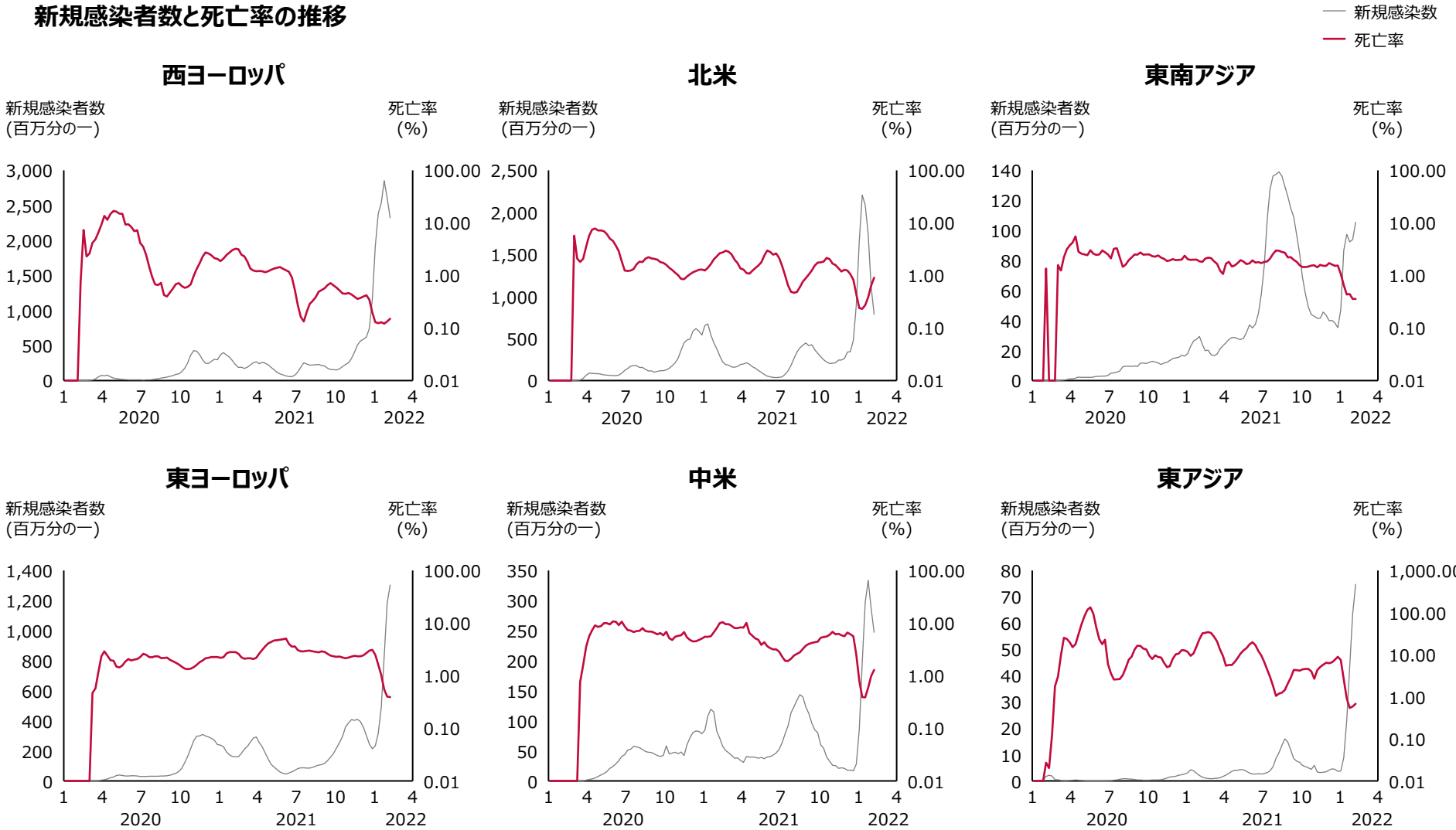


データ出所：座席数回復率はOAGの座席数データをもとに2019年を100%としてJTB総合研究所が算出。
新規感染者数は Our World in Data (<https://ourworldindata.org/coronavirus>)

ワクチン接種などの対策の積み重ねによって死亡率が低下してきたことが各国における水際対策の緩和の背景となっている

◆ 西ヨーロッパや北米ではワクチン接種など様々な対策の積み重ねにより死亡率が下がってきている。オミクロン株の感染拡大が峠を越えつつある国々を中心に水際対策緩和の動きが出てきているが、死亡率の低下がその背景と考えられる。

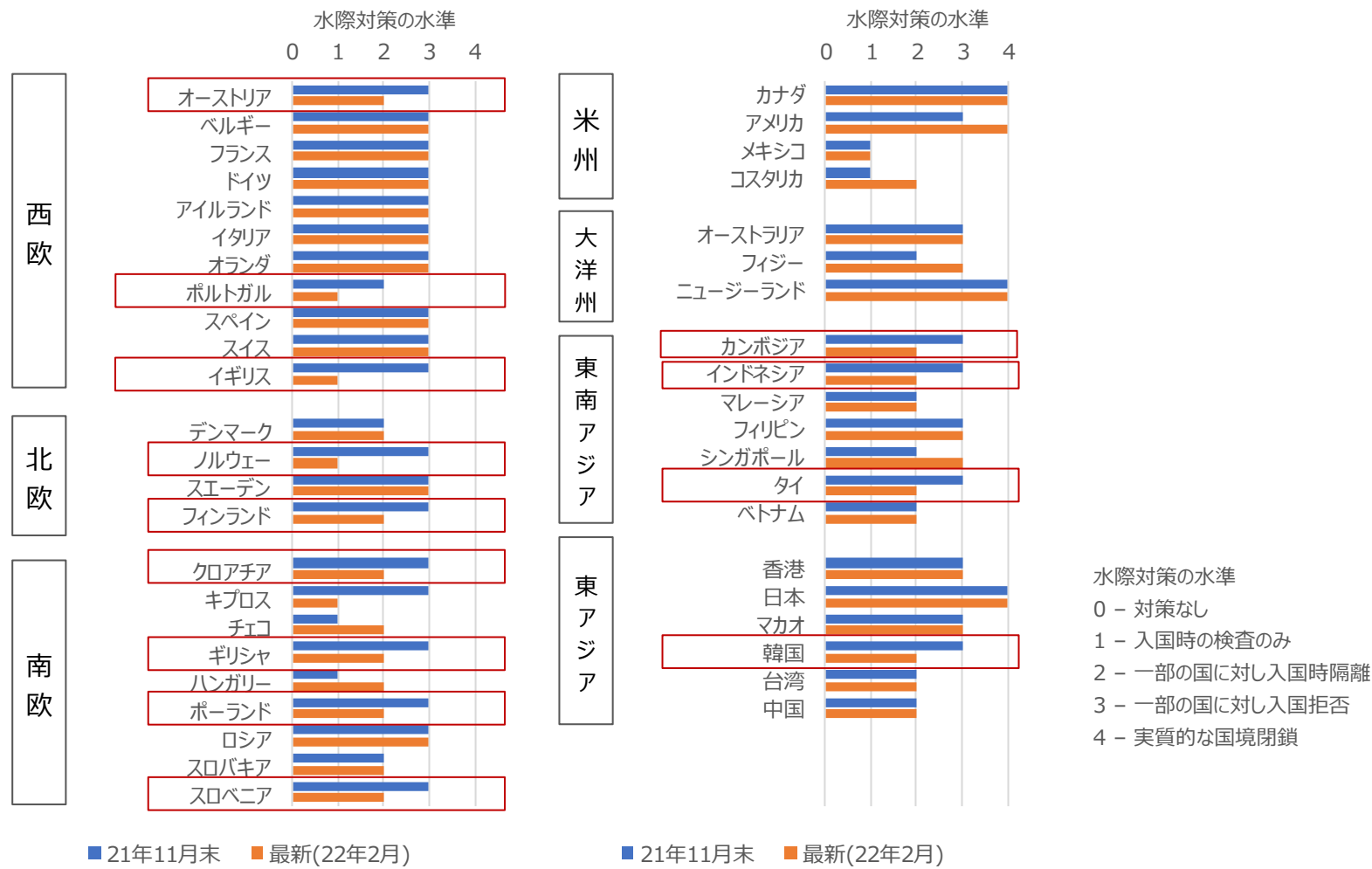
新規感染者数と死亡率の推移



オミクロン株の流行を境に水際対策の緩和に動く国が増えつつある

◆ オミクロン株の感染拡大前(2021年11月末)に比べ、オミクロン株流行下の2022年2月中～下旬における水際対策の水準が緩和された国が増えつつある。

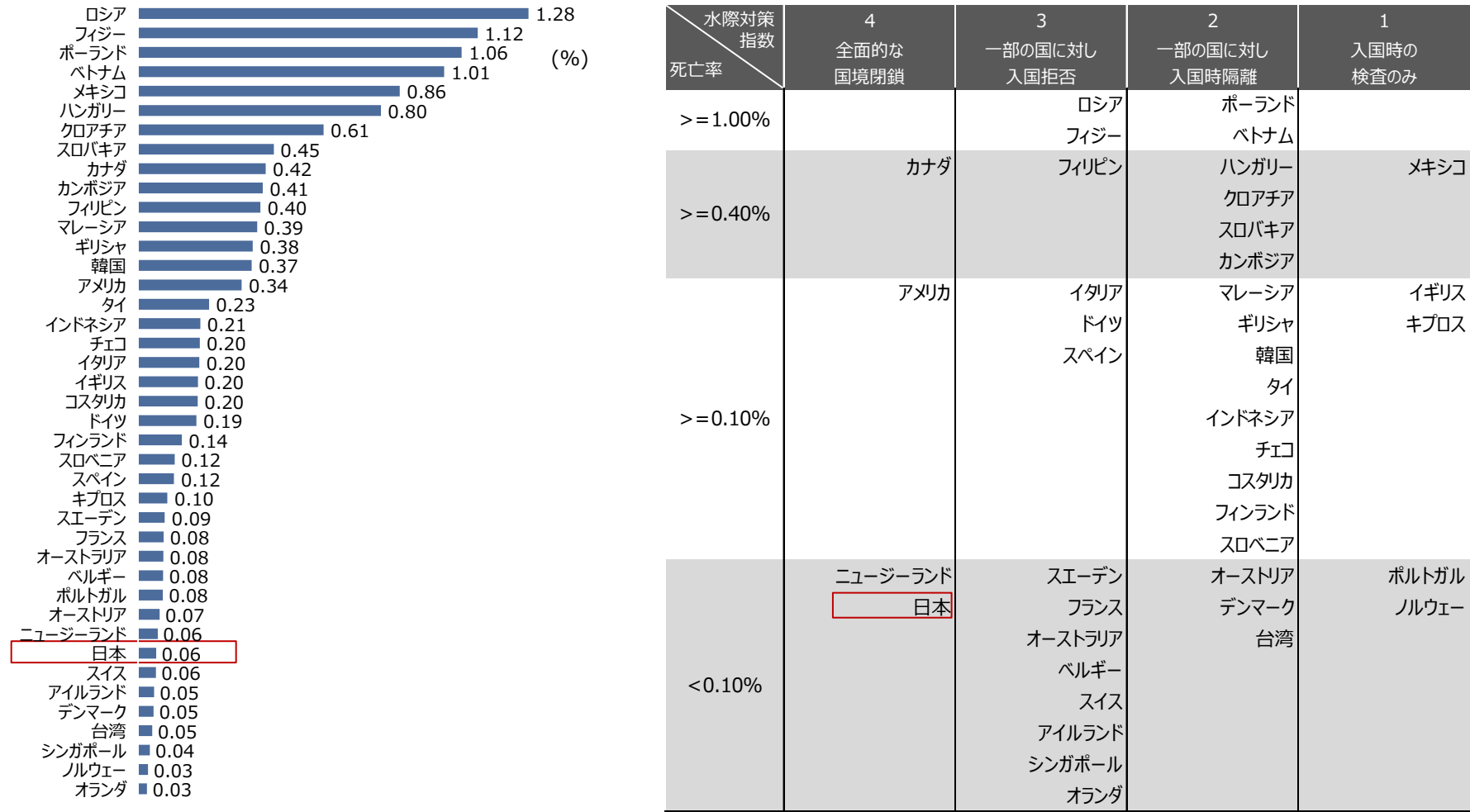
2021年11月末と現状(2022年2月)の水際対策の水準の変化



一方で死亡率の高さと水際対策の水準は国によってばらばら

◆ 水際対策は各国の判断で決定されており、死亡率の高さと水際対策の水準は対応関係にはなっていない。

各国における新型コロナウイルスによる死亡率と水際対策の水準(2022年2月時点)

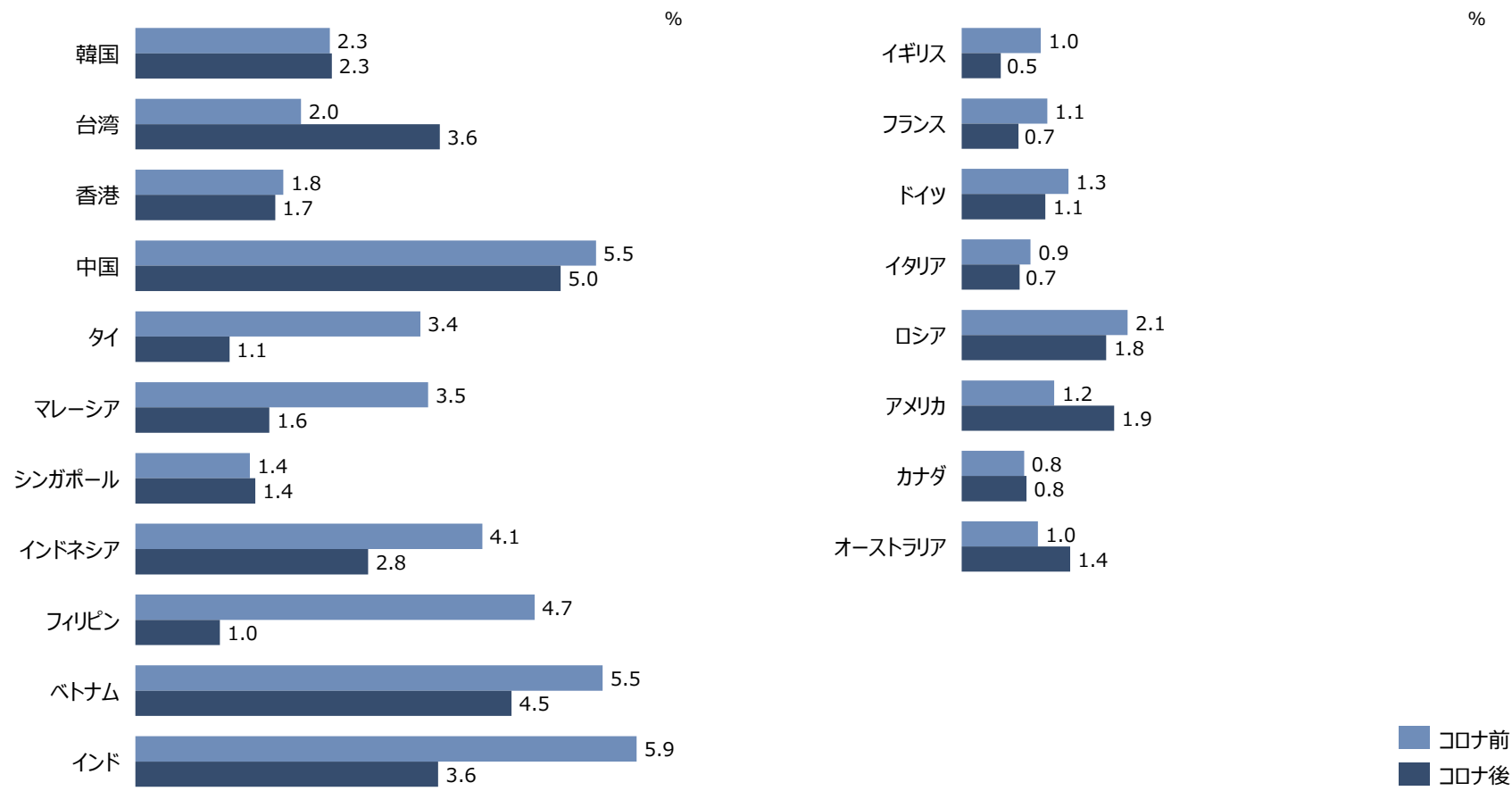


COVIDの影響は直接的影響から間接的影響のフェーズへ
経済環境の変化による旅行需要への影響を懸念

感染対策における経済力の差が経済の回復にも波及しつつある

- ◆ COVIDの感染対策では経済力で勝る先進国が先行、結果として経済の回復も先進国の方が早く、新興国はいずれの面においても相対的に遅行すると予想されている。
- ◆ 下のグラフは訪日旅行者の主要市場の実質GDP成長率予測をCOVID前(2019年10月時点)と比較したものであるが、東南アジアなど、今後の成長が期待されていた市場で、経済成長率が大きく下方修正されていることがわかる。

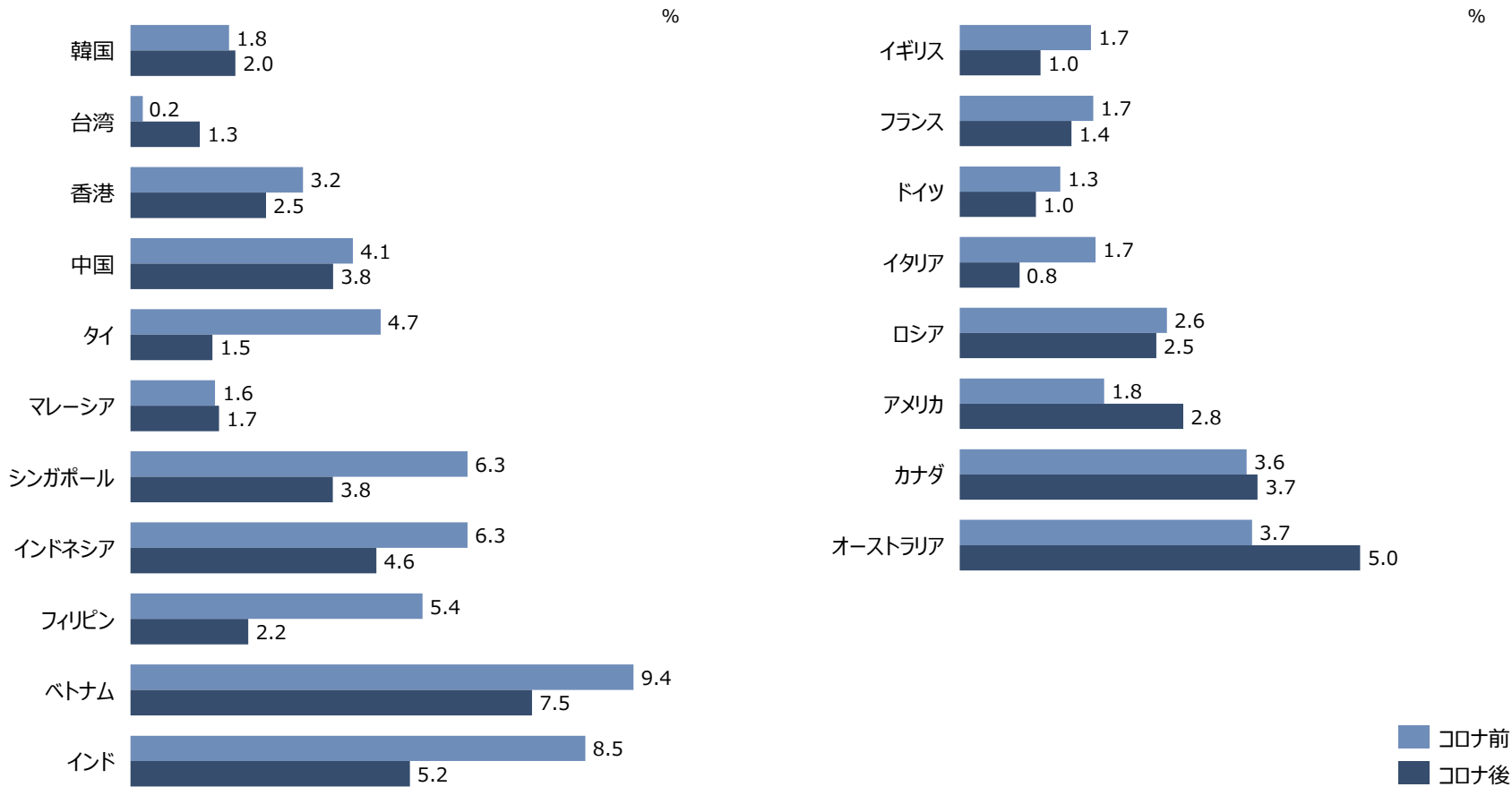
2019～2024年の実質GDP成長率予測値(年率)



経済成長率への影響は新興国で大きく、回復期の旅行需要への影響は不可避

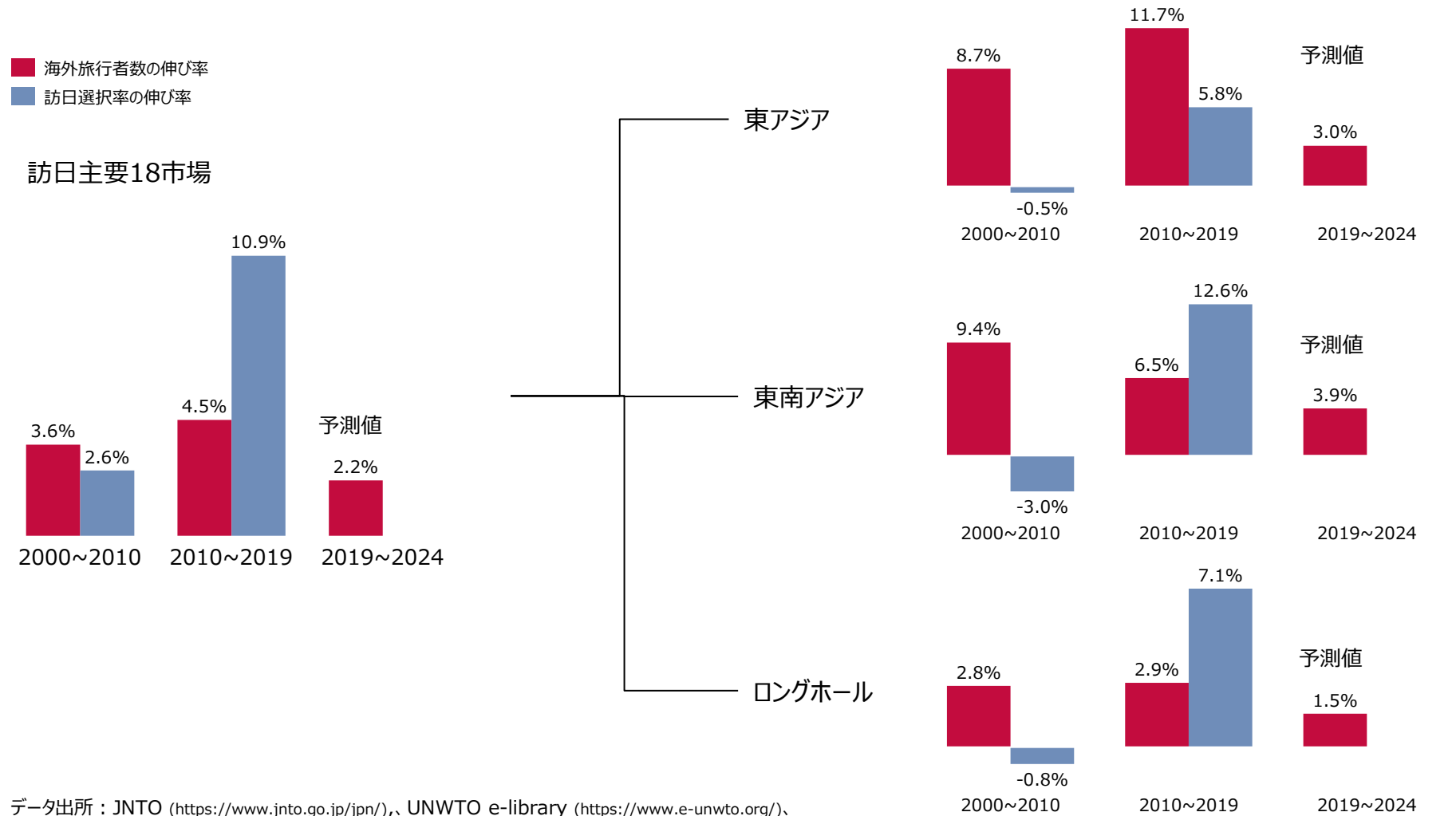
- ◆ 各市場の海外旅行者数は経済成長率との相関が高く、経済成長率の下方修正は海外旅行者数の伸び率に大きく影響すると予想される。下のグラフは訪日旅行者の主要市場について経済成長率にもとづく海外旅行者数の伸び率をCOVID前(2019年10月時点)と比較したものである。
- ◆ 経済成長率が大きく下方修正された東南アジアの市場においては海外旅行者数の伸び率も大幅に下がる可能性が高く、需要回復がスローペースとなる恐れがある。

2019～2024年の海外旅行者数成長率予測値(年率)



訪日旅行の主要マーケットにおける海外旅行者数の成長率も大幅に減速するおそれ

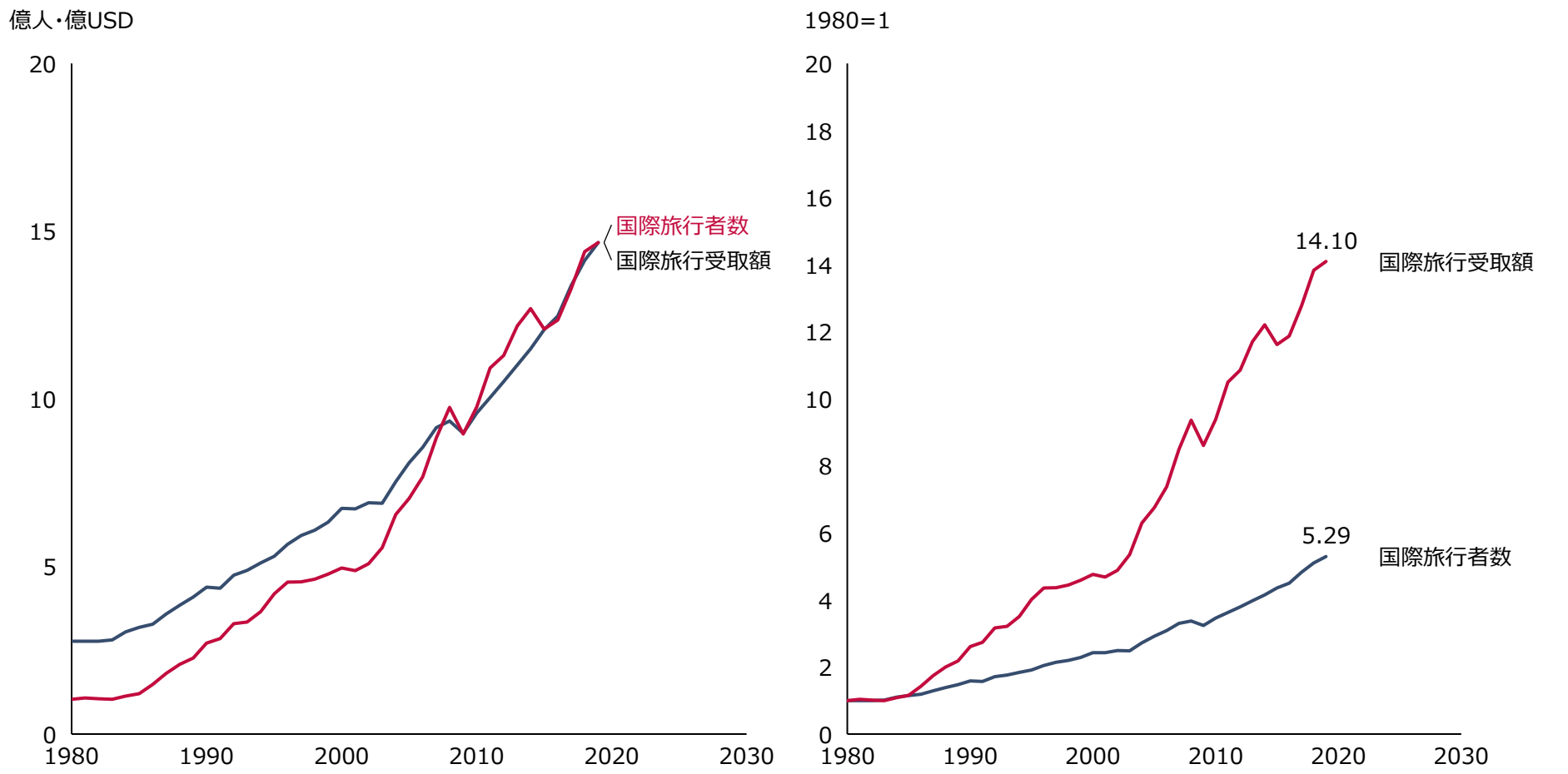
- ◆ 下図は訪日旅行者の主要市場について過去の旅行者数の伸び率を各市場の海外旅行者数の伸び率と訪日選択率の伸び率に分解したものである。2019～2024における海外旅行者数の伸び率は前ページで示した今後の経済成長率をもとに予測したものである(COVIDによる成長率の下方修正を織り込んだもの)。訪日選択率については予測が難しいため提示していない。
- ◆ COVIDによって伸び率が下方修正された東南アジアだけでなく東アジアでも海外旅行者数の伸び率が急減速する恐れがある。東アジアにおける減速は中国経済の成長鈍化が主な要因であり、これはCOVID前から予想されていたことである。



データ出所：JNTO (<https://www.jnto.go.jp/jpn/>)、UNWTO e-library (<https://www.e-unwto.org/>)、IMF World Economic Outlook (<https://www.imf.org/en/Data>) をもとにJTB総合研究所推計

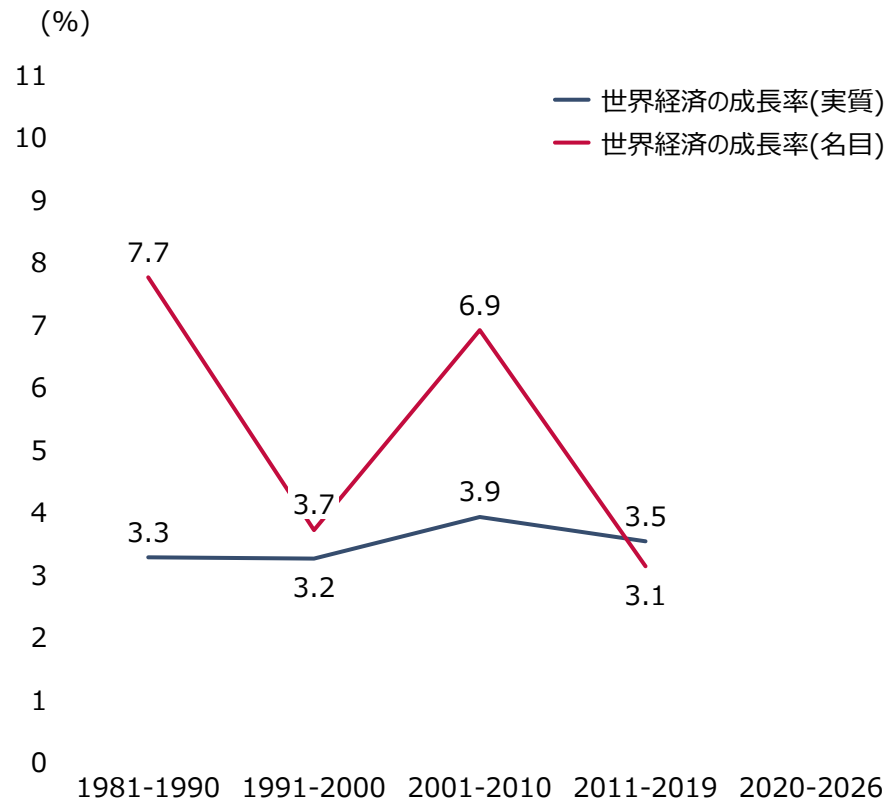
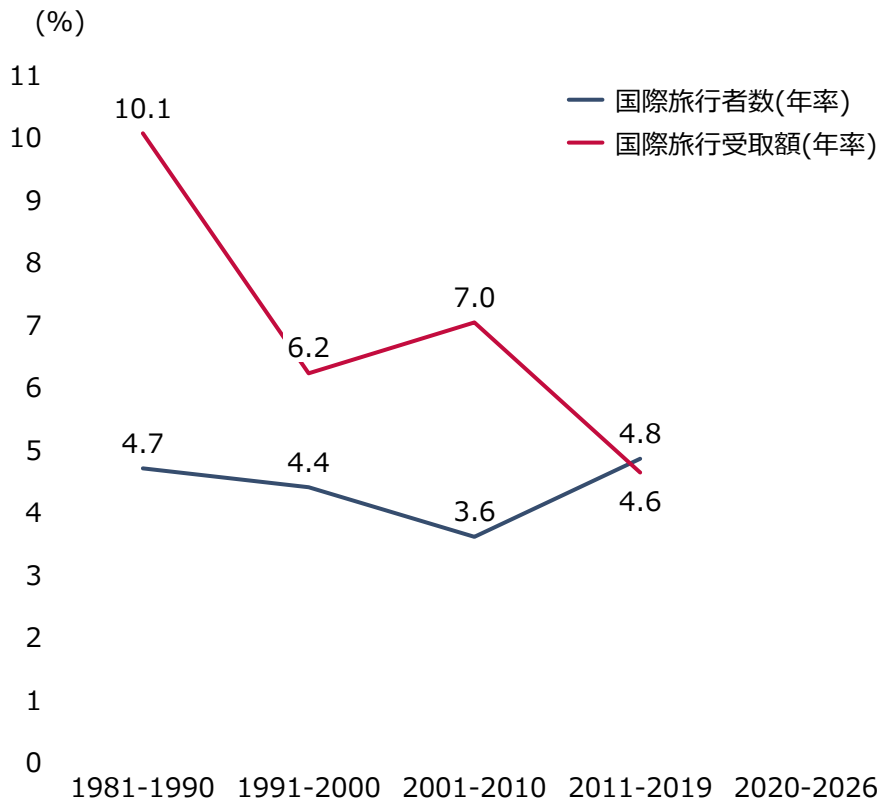
長期的にみた国際旅行需要は単価の上昇が人数の伸び率を上回って推移してきたが…

- ◆ アフターコロナのインバウンドの市場環境にはもう一つ別の要因が大きな影響を与える可能性がある。18～21ページで説明する。
- ◆ 2019年の国際旅行者数は1980年比で5.29倍へ増加、同じく国際旅行受取額（≒旅行者消費額、名目値）は14.10倍に増加している。
- ◆ 長期的にみたグローバルな旅行需要は金額の伸び率が人数を上回っており、大幅な単価の上昇が続いてきたことが分かる。これは世界が豊かになり、名目所得と物価とが上昇傾向をたどってきたことによるものと考えられる。



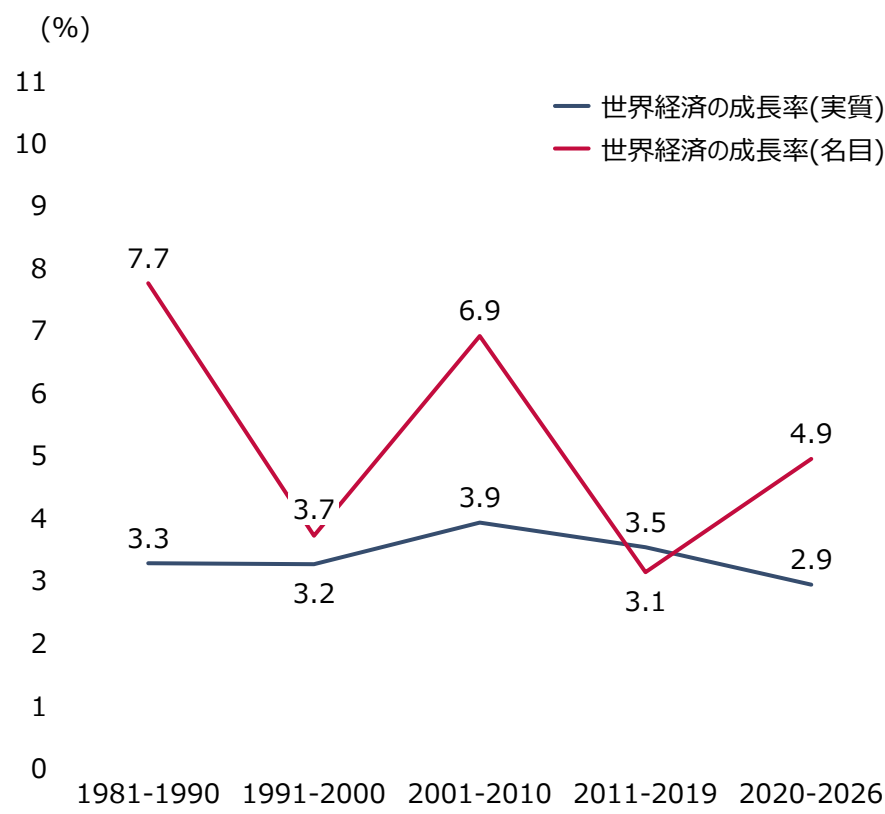
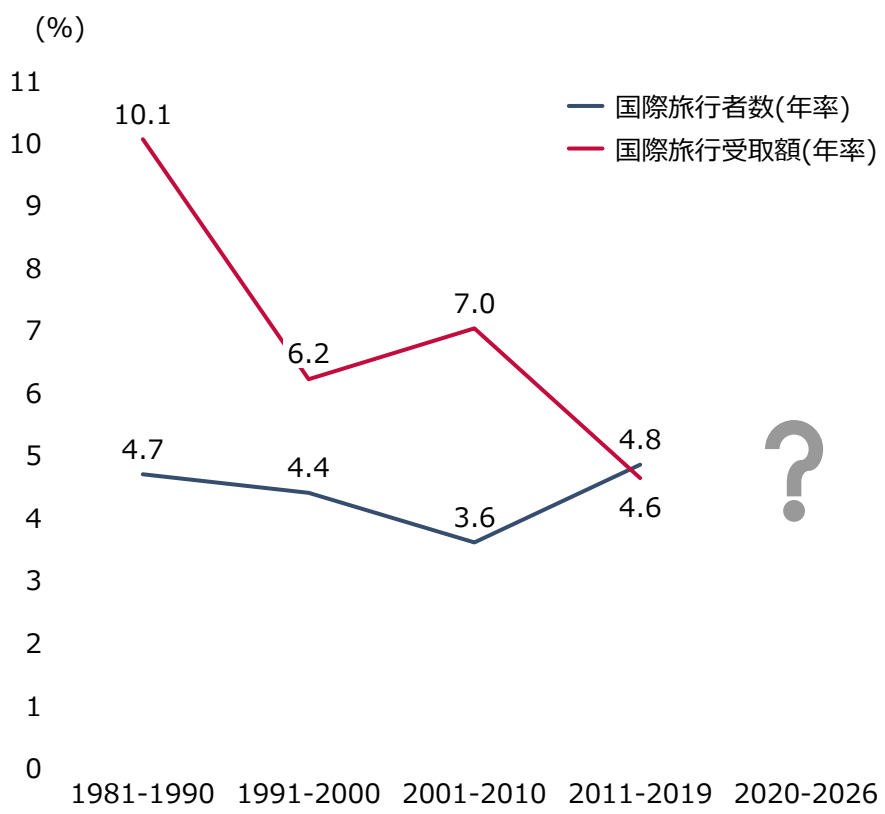
2010～2019における国際旅行需要は実質単価の下落を背景に旅行者数の伸び率が上向いていた

- ◆ ところが、受取額と旅行者数の伸び率を10年単位で比較すると、受取額の伸び率が次第に下がり、2011年～2019年においては、受取額（4.6%/年）の伸率が旅行者数（4.8%/年）を下回ったことが分かる。これは単価の上昇が止まったことを意味する。
- ◆ こうした傾向は名目・実質でみた世界経済の成長率の推移と軌を一にしている。2011年～2019年における単価の停滞はグローバルな経済における物価の停滞の影響を色濃く受けた結果と考えられる。



アフターコロナは前の10年間とは様相が大きく変化する可能性が高まっている

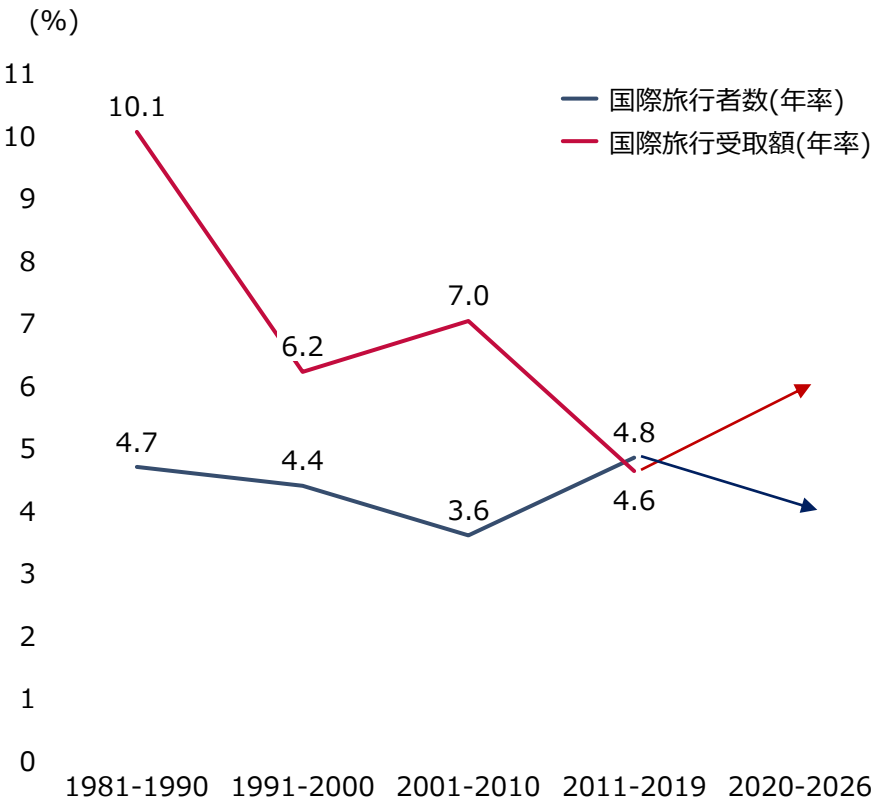
- ◆ IMFの予測では2020年～2026年の世界経済は名目成長率が実質成長率を上回る見通しとなっている。物価上昇が止まっていた2011年～2019年の状況から転換して穏やかながらも物価が上昇していく展望である。このような変化は、アフターコロナの旅行需要（左図）にどのような影響を与えるだろうか。



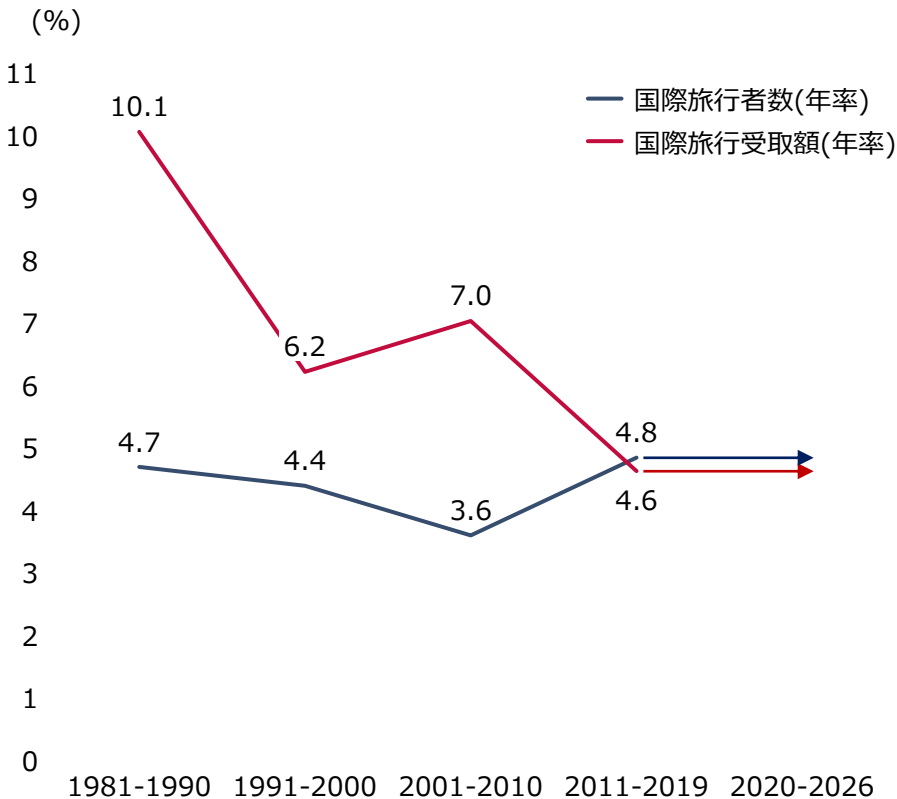
COVID後における国際旅行需要においては、旅行単価が上昇する一方で旅行者数の伸び率が抑制される展開となる可能性が高まっている(シナリオ 1 が有力)

- ◆ 物価の上昇は旅行単価の上昇に結び付く可能性が大きい。そして単価が上昇すれば相対的に旅行者数の伸び率は抑制される可能性が高い。これがシナリオ 1 であり、こちらが有力と考えられる。但し、需要回復局面では需要の奪い合いとなり価格上昇が抑制される可能性もある。こうした場合、旅行者数の伸び率は概ね横ばいで推移するケースもありうるだろう(シナリオ 2)。

シナリオ 1 旅行単価が上昇、旅行者数の伸び率減速



シナリオ 2 旅行単価、旅行者数の伸び率とも横ばい



データ表

P6,P7,P10,P11のグラフについては週単位のデータを使用しており冗長な数表となるため掲載しておりません
グラフに数値が併記されているものについては数表の掲載を省略しています

【本文P7】エリア別にみた国際旅行需要の回復率

欧州	2020												2021											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
オーストリア	106%	113%	41%	2%	4%	26%	72%	77%	74%	33%	11%	2%	2%	2%	2%	5%	28%	45%	72%	98%	97%	86%	60%	49%
クロアチア	109%	110%	36%	4%	5%	29%	58%	59%	32%	22%	37%	24%	34%	29%	32%	18%	30%	49%	81%	93%	96%	71%	63%	65%
ドイツ	102%	102%	33%	7%	9%	58%	43%	44%	42%	28%	15%	11%	14%	14%	15%	12%	13%	4%	41%	47%	54%	61%	57%	-
イタリア	104%	81%	20%	13%	17%	29%	51%	68%	62%	38%	28%	31%	34%	32%	29%	24%	25%	37%	50%	71%	76%	-	-	-
オランダ	108%	112%	40%	3%	9%	32%	68%	56%	55%	21%	11%	12%	10%	15%	9%	6%	16%	23%	49%	43%	62%	73%	73%	-
スペイン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11%	9%	10%	9%	13%	21%	41%	52%	55%	69%	81%	-

データ出所：tourMIS (<https://www.tourmis.info/>)

米州	2020												2021											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カナダ	106%	104%	40%	2%	1%	2%	2%	2%	3%	4%	6%	6%	7%	5%	5%	4%	3%	-	-	-	-	-	-	-
チリ	81%	91%	36%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	8%	4%	6%	6%	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コスタリカ	101%	109%	49%	3%	2%	3%	0%	1%	2%	5%	15%	23%	18%	18%	27%	34%	45%	50%	57%	54%	53%	-	-	-
メキシコ	109%	112%	66%	21%	26%	25%	33%	38%	60%	56%	54%	56%	55%	47%	54%	64%	77%	80%	81%	78%	-	-	-	-
ペルー	98%	103%	31%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	3%	10%	3%	2%	3%	4%	6%	7%	9%	-	-	-	-	-
アメリカ	99%	98%	50%	4%	4%	5%	7%	9%	9%	11%	15%	17%	18%	14%	17%	19%	26%	27%	26%	27%	-	-	-	-

東南アジア	2020												2021											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
モルジブ	114%	89%	37%	0%	0%	0%	1%	5%	8%	15%	26%	56%	61%	57%	67%	56%	63%	49%	77%	103%	98%	-	-	-
インドネシア	107%	70%	37%	12%	13%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	12%	11%	9%	10%	10%	12%	10%	9%	8%	9%	-	-	-
マレーシア	99%	65%	29%	0%	0%	0%	1%	0%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	-	-	-	-	-	-	-
フィリピン	109%	58%	18%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	1%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	2%	-	-	-	-	-	-
シンガポール	104%	49%	15%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	2%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	2%	-	-

東アジア	2020												2021											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
台湾	94%	37%	7%	0%	0%	1%	1%	2%	3%	2%	2%	2%	2%	1%	2%	2%	1%	0%	1%	1%	2%	-	-	-
韓国	116%	57%	5%	2%	2%	2%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	5%	5%	5%	4%	5%	5%	6%	6%	6%	-	-	-
マカオ	83%	4%	6%	0%	0%	1%	2%	6%	16%	18%	22%	21%	16%	12%	22%	23%	25%	17%	22%	11%	23%	-	-	-
日本	99%	42%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	2%	2%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	1%	1%	1%	1%	0%

データ出所：PATAmPOWER (<http://mpower.pata.org/>)

【本文P8】米国のアウトバウンド旅行者数回復率（2019=100%）

	2020												2021											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
海外旅行者数の回復率	102%	97%	30%	0%	1%	1%	6%	9%	10%	14%	18%	24%	20%	19%	22%	26%	29%	37%	52%	53%	-	-	-	-
外出規制	0.0	0.0	1.1	2.0	2.0	2.0	1.6	1.0	1.0	1.4	1.5	2.0	2.0	2.0	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-

(注)外出規制のスコアは 0 が規制なし、1 が外出自粛、2 が外出規制(外出は必要最小限)、3 が外出規制(一部の例外除き)で、一日単位で規制のスコアが変化するため月間の平均値は小数点以下を含む値となっている。

データ出所：National Travel and Tourism Office (<https://www.trade.gov/national-travel-and-tourism-office>), Our World in Data (<https://ourworldindata.org/coronavirus>)

【本文P18】国際旅行者数、国際旅行受取額の推移

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
国際旅行者数(億人)	2.77	2.77	2.77	2.81	3.05	3.18	3.28	3.58	3.84	4.09	4.38	4.35	4.74	4.88	5.1	5.3	5.66	5.92	6.08	6.32
国際旅行受取額(億USD)	1.04	1.08	1.05	1.04	1.13	1.2	1.48	1.81	2.08	2.27	2.71	2.85	3.29	3.34	3.65	4.18	4.53	4.54	4.62	4.77

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
国際旅行者数(億人)	6.73	6.72	6.9	6.88	7.53	8.09	8.55	9.14	9.34	8.97	9.58	10.04	10.51	11.01	11.49	12.06	12.47	13.37	14.13	14.66
国際旅行受取額(億USD)	4.95	4.87	5.08	5.56	6.55	7.03	7.67	8.83	9.74	8.95	9.76	10.92	11.29	12.17	12.69	12.08	12.35	13.28	14.39	14.66

データ出所：UNWTO Tourism Data Dashboard (<https://www.unwto.org/unwto-tourism-dashboard>) 掲載データ

同上、指数(1980=1.00)

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
国際旅行者数	1.00	1.00	1.00	1.01	1.10	1.15	1.18	1.29	1.39	1.48	1.58	1.57	1.71	1.76	1.84	1.91	2.04	2.14	2.19	2.28
国際旅行受取額	1.00	1.04	1.01	1.00	1.09	1.15	1.42	1.74	2.00	2.18	2.61	2.74	3.16	3.21	3.51	4.02	4.36	4.37	4.44	4.59

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
国際旅行者数	2.43	2.43	2.49	2.48	2.72	2.92	3.09	3.30	3.37	3.24	3.46	3.62	3.79	3.97	4.15	4.35	4.50	4.83	5.10	5.29
国際旅行受取額	4.76	4.68	4.88	5.35	6.30	6.76	7.38	8.49	9.37	8.61	9.38	10.50	10.86	11.70	12.20	11.62	11.88	12.77	13.84	14.10

データ出所：UNWTO Tourism Data Dashboard (<https://www.unwto.org/unwto-tourism-dashboard>) 掲載データ